

一歩前に入る人になる

入社3年目の浩紀さんは、仕事では常に「自分から動く人」であろうと心がけています。

朝は少し早めに出社し、誰にも言われずに床を掃きます。

挨拶は待たずに自分から。

廊下ですれ違えば、相手の目を見て声をかけます。

エレベーターでは「何階までですか」と先に尋ね、操作

盤に手を伸ばします。

電話の呼び出し音が鳴れば、迷わず受話器を取ります。

会議では、考えがまとまらなくてもまず手を挙げます。

通路に紙くずを見つければ、自らゴミ拾いをします。

浩紀さんは就職の際、父から「率先するには勇気がいる。だからこそ、その役目を引き受けなさい」と教えられました。

一方で、順番を待つ場面では人に譲ることも忘れません。迷ったときこそ、自分の「第一歩」を踏み出す好機です。小さな行動の積み重ねが、信頼を育てていくのです。

今日の言霊 勇気ある一歩先に

職場で信頼される人は、特別な能力よりも「先に動く姿勢」を大切にしています。

例えば、朝の準備を誰よりも早く整える、声かけを待たずに挨拶する、共有スペースを見て気づいたことを整える。来客時に自分から案内する、電話や問い合わせにすぐ対応する、話し合いの場で沈黙を破る。

こうした行動は、どれも難しいことではありませんが、最初に動くには少しの覚悟が要ります。

周囲の反応を気にして立ち止まるより、「今、自分ができること」を選ぶ。その積み重ねが、職場の空気を前向きに変えていきます。誰かがやるのを待つのではなく、自分がきっかけになる。その姿勢こそが、周囲を動かし、信頼を広げていく力になるのです。まずは今日、自分から一歩踏み出してみましよう。

【今回の学び】⇒迷った瞬間こそ、自分が動く合図になる！

